The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	<図書紹介>「大阪の産業デザインの変遷」〔第1部「概論」,第2部「製品デザイン」,第3部「広告デザイン」〕(各冊A4判,28P)大阪府商工部ソフト産業振興課発行1993,1994,1995
Author(s)	日野, 永一
Citation	デザイン理論. 1995, 34, p. 150-151
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/53052
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

「大阪の産業デザインの変遷」〔第1部「概論」，第2部「製品デザイン」，第3部「広告デザイン」〕

（各冊A4判，28P）　大阪府商工部ソフト産業振興課発行　1993，1994，1995

日野永一／兵庫教育大学

近代日本のデザインの変遷というと，何か東京中心に展開されて来たかのようなイメージを持つ人が多い。これは日本のデザインが欧米のデザインを追いかけることに意識が向けられたあまり，その直輸入の窓口である東京の動向にのみ目が向けられたことや，出版機能の東京への一極集中の弊害がもたらした現象であるのかも知れない。

しかし，実際には西陣・友禅・清水焼・京漆器等伝統的な産業の振興をねらった京都をはじめとして，日本各地では，独自のデザインの展開が図られていた。特に大阪は「煙の都」と称されたように，日常生活と関係の深い雑貨類を中心とした産業で栄え，日本一の工業都市として一時は東京を抜く人口を抱てさえいた。明治22年に設立された大阪府商品陳列所では，早くから商品・商品広告・店舗装飾などの意匠図案の指導が行われるなど独自のデザインの展開が行われたが，そうした事実も広く知られていない。

また戦後においても，家電製品を中心としたデザインが，日本のデザインをリードする一つの力ともなっていた。そして行政・産業界・デザイン関係者によってデザイン振興機関が早くから設立されるなど，全国に先駆けたデザイン振興運動を展開してきた。それにもかかわらず，大阪のデザインが顧みられることのなかったのは，直接の関係者のみならず，広くデザイン関係者にとっては残念なことでもあった。

こうした中で大阪府の委託を受け，「大阪の産業デザインの変遷」が財団法人大阪デザインセンターにより編集され，現在第3部まで刊行されていることは，大変意義のあることである。

各巻の内容を簡単に紹介したい。

第1部「概論」は，繊維デザイナーとしてばかりでなく，長く大阪のデザイン界の指導にかかわってこられた谷川順一氏の主筆になるもので，前述の大阪府商品陳列所や，大正時代の大阪市立工芸学校や大阪府工芸協会の設立，昭和前期の工業品美化運動等，戦後に開花するデザインの伝統的な背景について述べる。戦後は繊維製品・魔法瓶・カメラ・鏡など輸出商品から復興し，家電製品を中心としたデザインの時代の到来までの全体像について，多くの実例をあげて概観している。

その他デザイン団体の結成や，大阪デザインセンターの前進に当たるデザインハウスの設立などデザインを巡る動き，そして三種の神器と呼ばれた家電製品，電卓・カッターなど大阪で生まれて世界に広まった製品のデザインについて紹介する。

第2部「製品デザイン」は，主筆が本学会の副会長でもありプロダクトデザインの世界で指導的立場にある高井一郎氏。魔法瓶・自転車・事務機器・スポーツ用品・家電製品等，戦前から展開されてきた大阪の産業が，戦後の生活向上と高度成長期を迎えてどのようなデザインの変遷をたどってきたか，そして生活者の視点に基づくデザインへ如何に転換しようとしているかについて，豊富な具体例をあげている。

ここでも大阪で誕生した製品の例が数々紹介され，現在のわれわれの身の回りになくてはならない製品も少なくないが，この製品も

大阪生まれであったのかと，改めて関西パワーを感じる人も多いだろう。

第3部「広告デザイン」は大阪芸術大学で長く指導に当たられたグラフィックデザイナー千田　甫氏の主筆になるもの。現在の毎日・朝日など大阪で明治初年に創刊された新聞には道修町に軒を連ねた薬問屋の広告が並び，薬品・化粧品・足袋などの屋外広告も全国に普及するなど，古くから大阪の広告界は活気に満ちていた。戦時中の暗黒時代を経て，終戦直後の広告活動，そして1970年の大阪万国博以降の発展とその流れを概観する。そして薬品・化粧品，百貨店，食品・飲料，家庭電化製品，交通・観光，繊維製品等各業種や企業において，戦前から現在に至るまでの変遷の過程を具体的に考察する。最後に広告における表現技術と媒体，広告制作企業や社会的な運動等について述べる。

これら3冊の装丁・レイアウトは，いずれも大阪芸術大学教授でグラフィックデザイナーの西尾　直氏による。各冊とも，モノクロではあるが数多くの図版が掲載され，デザインの変遷が視覚的に理解できるよう考慮されている。

資料の少ない中で執筆に当たられた関係者の苦労に感謝すると同時に，大阪府という自治体が，このようなデザインの変遷についての図書の刊行を企画したのは大変画期的なことであり，敬意を表したい。また最初に述べたように，大阪のデザインについてまとまった図書が皆無という現状において，その意義は大きい。

欲を言えば，役所の予算の関係からであろう，それぞれ30ページばかりの小冊子，読者には物足りなさも残る。ただ，大阪のデザインの変遷については，本格的な研究の手がまったくつけられていない現段階である。今後はこれらの図書を一つの手掛かりとして，詳細な研究が進められるべきであろう。その意味でこれらの図書からの発展を，将来に期待したい。

残念ながらこれらの図書はその性格から，書店で広く人の目に触れる機会を持つわけでもなく，デザイン関係者の中にも広く宣伝が行き渡っているというわけでもない。しかし，大阪のデザインに関心を持つ人には，是非目を通して欲しい図書である。

なお，各書は1冊800円，下記へ申し込むと入手できる。

〒541
大阪市中央区船場中央2-1-2-208
船場中央ビル4号館2階
財団法人　大阪デザインセンター
電 話 06-262-5661.
FAX. 06-262-5665.